

Ⅱ－５ 以下の場合、C型肝炎に感染する可能性は、どの程度あると思いますか。それぞれについてお答えください。

本やウェブサイトを参考にせず、あなた自身の考えでお答えください。

	可能性は 非常にある	可能性は ややある	可能性はほ とんどない	可能性は 全くない	わからない
(感染者と) 会話をする	○	○	○	○	○
(咳をしている感染者と) 会話をする	○	○	○	○	○
(感染者と) 握手をする	○	○	○	○	○
(感染者と) 同じ皿からものをとって食べる	○	○	○	○	○
(感染者と) 同じ食器を使って食べる	○	○	○	○	○
(感染者と) 一緒に入浴する	○	○	○	○	○
(感染者と) タオルを共用する	○	○	○	○	○
(感染者と) 歯ブラシを共用する	○	○	○	○	○
(感染者と) かみそりを共用する	○	○	○	○	○
(感染者と) キスをする	○	○	○	○	○
(感染者と) 性交渉を持つ	○	○	○	○	○
(感染者の血液がついた) 便座に座る	○	○	○	○	○
(感染者から吸血した) 蚊に刺される	○	○	○	○	○

設問Ⅲ この部分では、あなた自身についてお伺いします。

Ⅲ－１ あなたの年齢、性別をお教えてください。

年齢 \_\_\_\_\_ 歳

性別 男性 女性

Ⅲ－２ あなたの住んでいる都道府県、市町村をお教えてください。

\_\_\_\_\_ 都 道 府 県 \_\_\_\_\_ 市 区 町 村

Ⅲ－３ あなたのお仕事をお教えてください。

- (ア) 会社員（管理職以外の正社員）
- (イ) 会社員（管理職）
- (ウ) 会社役員・経営者
- (エ) 派遣・契約社員
- (オ) 公務員・非営利団体職員
- (カ) 教職員講師
- (キ) 医療専門職（医師・歯科医師・看護師・助産師など）
- (ク) その他専門職（弁護士、会計士、税理士など）
- (ケ) 農林漁業
- (コ) 自営業（農林漁業を除く）
- (サ) フリーター
- (シ) 専業主婦／主夫（パートをしている）
- (ス) 専業主婦／主夫（パートはしていない）
- (セ) 学生（アルバイトをしている）
- (ソ) 学生（アルバイトはしていない）
- (タ) 無職、定年退職
- (チ) その他

Ⅲ－４ あなたのお仕事は医薬品や医療機器の製造・販売にかかわりますか。

- 1 はい 2 いいえ

Ⅲ－５ 結婚状況

- 1 未婚 2 既婚 3 離死別

Ⅲ－６ 最終学歴

- 1 大学院 2 大学 3 短期大学 4 専門学校 5 高等学校 6 中学校 7 その他

Ⅲ－７ 以下の項目は、あなたの日常的な行動に照らして、どの程度あてはまると思われますか。それぞれについてお答えください。

	大いに あてはまる	やや あてはまる	あまりあて はまらない	全くあて はまらない	答えたく ない
1. 世話好きで、人の面倒を見ることが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 他人の争いごとがあると仲良く入る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 皆で決めたルールは絶対を守る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 悪いことや間違っただけで許せない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 他人の些細な発言や行動でイライラすることが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 物事が決まるとおりに進まないと感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 思いついたら、すぐに実行しないと気が済まない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 感情をコントロールして行動するようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 特にお用事がなくても友人にメールや電話をする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 友人・同僚からの誘いはできるだけ断らないようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 自分以外のところで友人や仲間が集まっていると、何をしているのか気になる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 気心の知れた仲間以外とはあまり一緒にいたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. いつも決まった友人・同僚と過ごしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 交流の幅が広い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15. 新聞で書いてあることは正しいと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16. テレビやラジオの報道に影響を受けやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17. テレビや雑誌などで知った面白い情報(他の人にも伝えたい)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18. インターネットの情報(掲示板やブログ、Twitter など)を参考にして買うものを決めることが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19. 物事の悪い面を想像して不安になることが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20. ちょっと嫌なことがあると悪い方向へ考えてしまいがちだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21. 他人と同じでないと不安を感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22. 何かと心配なことが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
23. 細かいことを気にしすぎる方だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
24. 些細なことでもこだわることが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
25. ちょっと言われたことでも、その意図が気になる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
26. 家の中や仕事を常に整理整頓している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
27. 本棚の本は全部きれいに並んでないと気が済まない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
28. 知らない人が触れたものに直接触るのを抵抗がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
29. 何でも自分の思い通りにしないと気が済まない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
30. 人がどう思うかよりも、自分がやりたいことを優先する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
31. 自分のペースを崩したくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
32. 他の人の弱点を指摘するのが得意だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

33. 悪口や陰口を言うことはめったにない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
34. ついつまい人が困るようなことをしてしまう	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
35. 苦しんでいる人がいても、同じ気持ちにはなれない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
36. 人の話を聞いていると、辛い話でもつい感情移入してしまう	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
37. 思いやりがあるとと言われる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
38. 差別を受けた経験がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
39. いじめを受けた経験がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
40. 他人をいじめた経験がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

最後に下記をお読みください。

【B型肝炎・C型肝炎の正しい知識について】

東京大学大学院生体防御感染症学（医師） 四柳 宏

ご協力ありがとうございました。

B型肝炎、C型肝炎は、どちらも血液を介して感染します。つまり、「感染している人の血液」が「別の人の血液の中に入る」ことにより感染が成立します。「別の人の血液の中に入る」のは、皮膚や粘膜（口の中、性器の表面、胃腸の中などねばねばした液体に覆われている部分）に傷がある場合に起こります。C型肝炎の感染経路としては、輸血による感染が以前は多かったのですが、今はほとんど見られません。現在の感染経路としてはウイルスで汚染した鍼（はり）による治療、入れ墨を入れること、ピアスの穴開けなどがあります。B型肝炎ウイルスの感染経路は出産時に母親から感染する場合が最も多く見られます。この他、大人の場合、ウイルスに感染している人との性交渉で感染することもあります。また、B型肝炎については集団予防接種の際の注射器の連続使用（国は予防接種実施規則により、昭和33年に注射針について、昭和63年に注射筒について、被接種者ごとに取り替えることを定めています）も感染源として挙げられています。これら以外の日常生活（食事を共にする、一緒に入浴する、手を握る）ことで感染することはありません。

B型肝炎はワクチンを接種することで予防が可能です。パートナーやご家族がB型肝炎にかかっておられる方はご自身もB型肝炎にかかれる可能性がありますので、ワクチンを接種することをお勧めします。B型肝炎のワクチンの副作用はほとんどなく、170カ国以上の国で定期接種（小児が決められた時期に接種を受けること）が行われています。

B型肝炎、C型肝炎の治療は大きく進歩しています。C型肝炎の患者さんの70%以上は治療によりウイルスを排除することができるようになりました。B型肝炎の患者さんも適切な治療を受けることで、他の人への感染の危険性を大きく減らすことができますし、ウイルスを排除することもできるようになってきました

このアンケートにお答え頂いたあなたがB型肝炎やC型肝炎にかかっている可能性はあるでしょうか。B型肝炎、C型肝炎は慢性肝炎の時期を経て肝硬変や肝臓がんに進展する危険性がある病気ですが、病気が進行しても症状はほとんどありませんから、検査を受けなければ感染していることはわかりません。つまりあなた自身がB型肝炎やC型肝炎にかかっているかどうかは検査をしなければわかりません。

現在はほとんどの自治体で無料検査ができるようになっています。今まであなたが肝炎の検査を受けたことがなければ、一度ぜひ検査を受けて下さい。仮に肝炎ウイルスに感染していても、早いうちに適切な診療を受ければ肝硬変や肝臓がんになることはまずありません。

III-8 あなたは、これを読んで、肝炎のウイルス検査をしてみたいと思いましたか。

1 はい 2 いいえ

図 1 : 「感染経路」に対する知識

分析対象：一般生活者・医療従事者

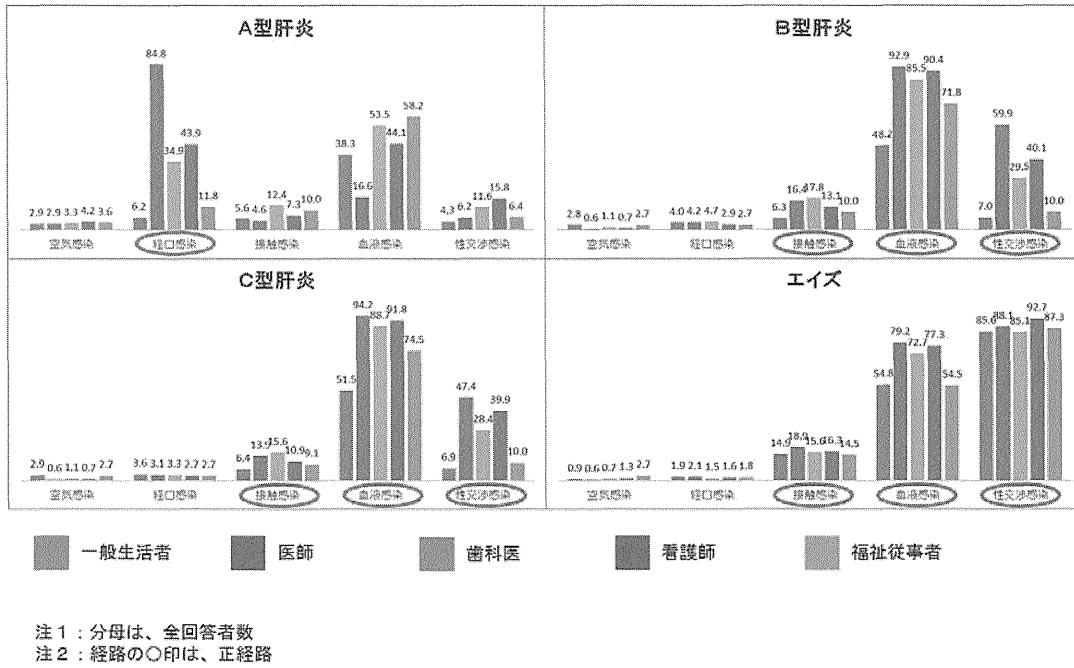


図 2 : 回答者属性による「知識」の差

分析対象：一般生活者

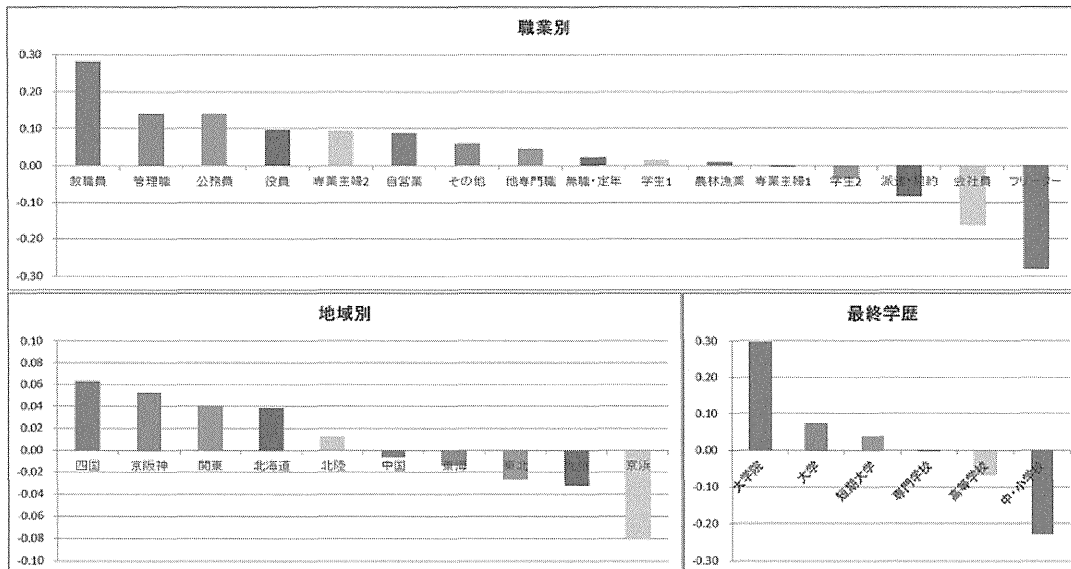


図3：感染可能性に関する因子分析

分析対象：一般生活者

			日常接触	濃密接触	血液接触
B 型 肝 炎	II-4-1	(感染者と) 会話をする	0.813	-0.168	0.093
	II-4-2	(咳をしている感染者と) 会話をする	0.793	0.069	0.107
	II-4-3	(感染者と) 握手をする	0.827	-0.104	0.096
	II-4-4	(感染者と) 同じ皿からものをとって食べる	0.817	0.231	0.060
	II-4-5	(感染者と) 同じ食器を使って食べる	0.775	0.338	0.058
	II-4-6	(感染者と) 一緒に入浴する	0.707	0.381	0.096
	II-4-7	(感染者と) タオルを共用する	0.578	0.567	0.068
	II-4-8	(感染者と) 歯ブラシを共用する	0.092	0.844	0.117
	II-4-9	(感染者と) かみそりを共用する	-0.084	0.814	0.199
	II-4-10	(感染者と) キスをする	0.282	0.756	0.164
	II-4-11	(感染者と) 性交渉をもつ	0.073	0.760	0.204
	II-4-12	(感染者の血液がついた) 便座に座る	0.102	0.539	0.589
	II-4-13	(感染者から吸血した) 蚊に刺される	0.196	0.283	0.781
C 型 肝 炎	II-5-1	(感染者と) 会話をする	0.843	-0.126	0.105
	II-5-2	(咳をしている感染者と) 会話をする	0.832	0.076	0.111
	II-5-3	(感染者と) 握手をする	0.856	-0.024	0.108
	II-5-4	(感染者と) 同じ皿からものをとって食べる	0.819	0.293	0.084
	II-5-5	(感染者と) 同じ食器を使って食べる	0.756	0.412	0.072
	II-5-6	(感染者と) 一緒に入浴する	0.690	0.460	0.109
	II-5-7	(感染者と) タオルを共用する	0.555	0.621	0.071
	II-5-8	(感染者と) 歯ブラシを共用する	0.111	0.848	0.136
	II-5-9	(感染者と) かみそりを共用する	-0.061	0.820	0.230
	II-5-10	(感染者と) キスをする	0.264	0.779	0.195
	II-5-11	(感染者と) 性交渉をもつ	0.093	0.777	0.233
	II-5-12	(感染者の血液がついた) 便座に座る	0.125	0.546	0.607
	II-5-13	(感染者から吸血した) 蚊に刺される	0.191	0.295	0.794

図4： 「B型肝炎患者への気持ち」に対する因子分析

分析対象：一般生活者 n=4,700

直交回転後の因子負荷量

II-1	同情心	忌避感	気の毒感	意地悪	恐怖感
恐ろしい病気	0.287	0.275	0.056	0.041	0.461
治らない病気	0.199	0.180	0.059	0.044	0.527
病気がうつる感じ	0.032	0.790	0.035	0.146	0.018
一緒の食事怖い	0.028	0.843	0.033	0.123	-0.001
恋人や配偶者は怖い	0.109	0.630	0.060	0.092	0.303
付き合いたくない	0.043	0.796	0.030	0.149	0.132
他人に告知すべき	0.070	0.626	0.057	0.152	0.074
告知したほうがよい	0.060	0.612	0.102	0.182	0.064
差別が気の毒	0.243	0.139	0.855	0.041	0.072
偏見が気の毒	0.259	0.115	0.854	0.043	0.064
性交渉で感染	-0.057	0.361	0.115	0.404	0.180
家族から感染	0.010	0.282	0.136	0.360	0.204
アルコールは不可	0.337	0.049	-0.027	0.360	-0.099
運動は不可	0.223	0.221	-0.020	0.460	-0.154
助成金も豊富	-0.082	0.177	-0.012	0.480	0.004
自覚症状に乏しい	-0.173	0.054	0.021	0.353	0.086
体調管理が大変	0.723	0.027	0.102	-0.025	-0.073
仕事や家事が大変	0.759	0.078	0.097	-0.010	-0.120
家族の負担大きい	0.680	0.191	0.111	0.012	0.060
保険の加入が困難	0.605	-0.008	0.092	0.040	0.200
病院に通うのが大変	0.714	0.009	0.068	-0.011	0.225
治療費が大変	0.737	0.001	0.093	-0.095	0.237
経済的に困難	0.684	0.037	0.114	-0.053	0.173

図5： 「C型肝炎患者への気持ち」に対する因子分析

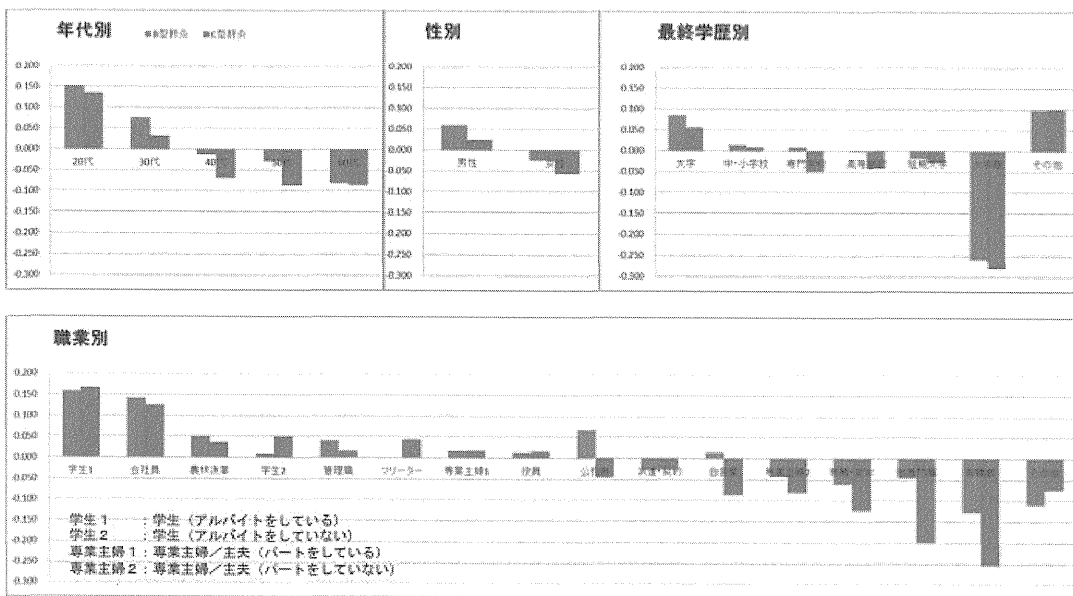
分析対象：一般生活者 n=4,670

直交回転後の因子負荷量

II-2	同情心	忌避感	気の毒感	意地悪	恐怖感
恐ろしい病気	0.338	0.215	0.099	0.014	<b>0.608</b>
治らない病気	0.259	0.186	0.086	0.027	<b>0.614</b>
病気がうつる感じ	0.019	<b>0.816</b>	0.010	0.178	0.082
一緒に食事怖い	0.030	<b>0.859</b>	0.004	0.159	0.056
恋人や配偶者は怖い	0.107	<b>0.653</b>	0.076	0.096	0.284
付き合いたくない	0.038	<b>0.817</b>	0.036	0.155	0.117
他人に告知すべき	0.091	<b>0.739</b>	0.099	0.090	-0.002
告知したほうがよい	0.080	<b>0.697</b>	0.147	0.123	-0.004
差別が気の毒	0.287	0.195	<b>0.831</b>	0.065	0.090
偏見が気の毒	0.302	0.175	<b>0.832</b>	0.037	0.105
性交渉で感染	-0.072	<b>0.455</b>	0.151	0.345	0.150
家族から感染	-0.005	<b>0.415</b>	0.180	0.311	0.141
アルコールは不可	0.306	0.009	-0.024	<b>0.435</b>	0.101
運動は不可	0.216	0.189	0.002	<b>0.529</b>	0.044
助成金も豊富	-0.094	0.232	0.012	<b>0.522</b>	-0.035
自覚症状に乏しい	-0.091	0.149	0.039	0.390	-0.046
体調管理が大変	<b>0.774</b>	0.009	0.085	0.091	0.066
仕事や家事が大変	<b>0.797</b>	0.034	0.084	0.098	0.047
家族の負担大きい	<b>0.751</b>	0.136	0.113	0.043	0.107
保険の加入が困難	<b>0.680</b>	0.011	0.099	0.043	0.164
病院に通うのが大変	<b>0.797</b>	0.031	0.080	-0.021	0.124
治療費が大変	<b>0.809</b>	0.012	0.099	-0.069	0.120
経済的に困難	<b>0.734</b>	0.049	0.139	-0.039	0.087

図6： 回答者属性別「忌避感」

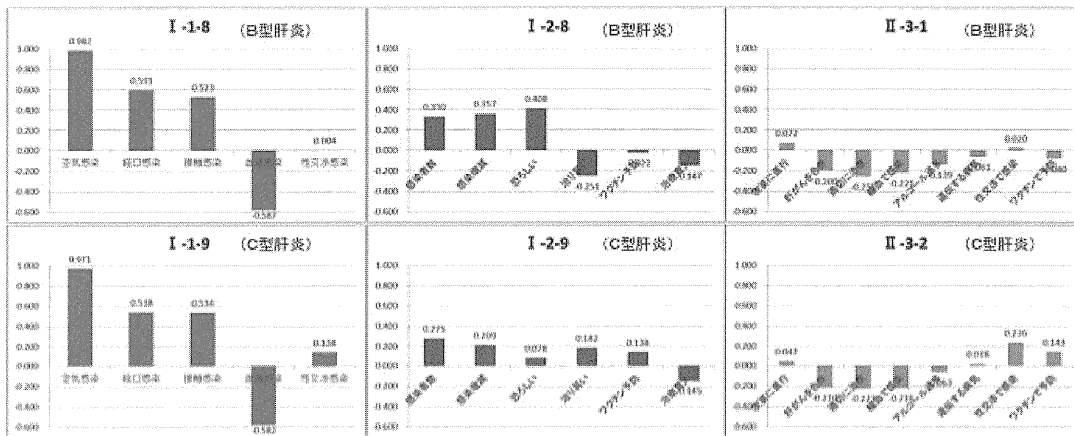
分析対象：一般生活者



注：一般生活者におけるB型肝炎患者に対する忌避感とC型肝炎患者に対する忌避感の平均値が、0となるように計算されている。各グラフにおけるカテゴリーの並び順は、2つの忌避感の単純平均による

問 7 : 知識と忌避感

分析対象：一般生活者



反応した回答者と反応しなかった回答者とを比べた時の忌避感平均値の差

図 8 : 「B型肝炎患者への忌避感」を説明する回帰分析 (一般生活者)

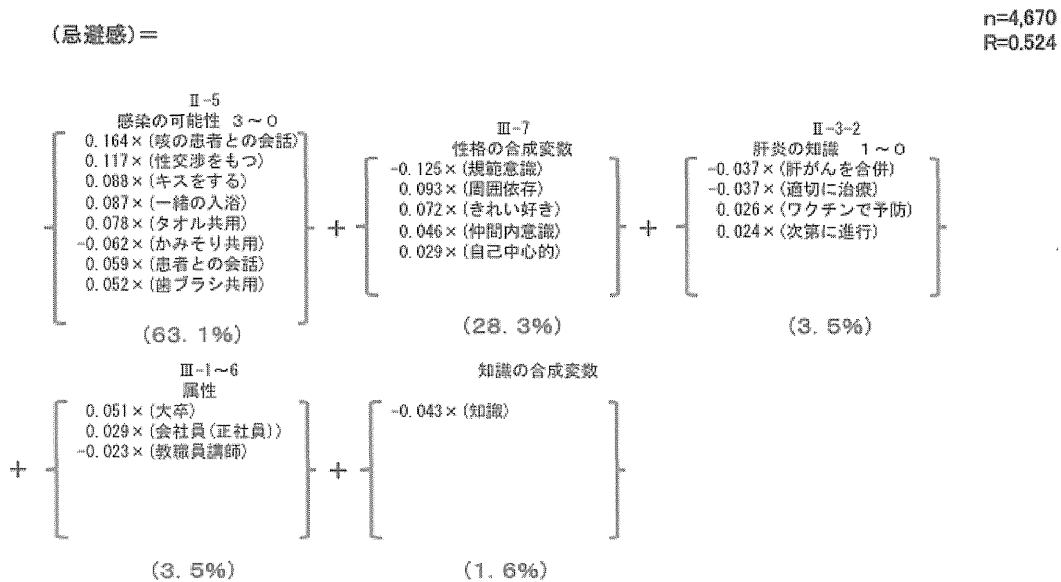
(忌避感) = n=4,700  
R=0.510

$$\begin{aligned}
 & \left[ \begin{array}{l} \text{II-4} \\ \text{感染の可能性 3~0} \\ 0.151 \times (\text{咳の患者との会話}) \\ 0.114 \times (\text{キスをする}) \\ 0.101 \times (\text{性交渉をもつ}) \\ 0.087 \times (\text{一緒の入浴}) \\ 0.071 \times (\text{同じ皿から食事}) \\ 0.054 \times (\text{タオル共用}) \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{III-7} \\ \text{性格の合成変数} \\ -0.118 \times (\text{規範意識}) \\ 0.069 \times (\text{きれい好き}) \\ 0.059 \times (\text{周囲依存}) \\ 0.024 \times (\text{短気}) \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{II-3-1} \\ \text{肝炎の知識 1~0} \\ 0.057 \times (\text{次第に進行}) \\ -0.035 \times (\text{適切に治療}) \end{array} \right] \\
 & \quad (58.6\%) \qquad \qquad \qquad (21.7\%) \qquad \qquad \qquad (4.3\%) \\
 & + \left[ \begin{array}{l} \text{III-1~6} \\ \text{属性} \\ 0.048 \times (\text{大卒}) \\ -0.026 \times (\text{関東}) \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{知識の合成変数} \\ -0.115 \times (\text{知識}) \end{array} \right] \\
 & \quad (2.8\%) \qquad \qquad \qquad (12.6\%)
 \end{aligned}$$

注 1 : 標準偏回帰係数 (β 係数) を表示  
 注 2 : 回帰係数の信頼係数は、全説明変数で 90% 以上  
 注 3 : 属性データは、年齢・年代・性別・エリア・職業・最終学歴とする



図9： 「C型肝炎患者への忌避感」を説明する回帰分析（一般生活者）



注1：標準偏回帰係数（β係数）を表示  
 注2：回帰係数の信頼係数は、全説明変数で90%以上  
 注3：属性データは、年齢・年代・性別・エリア・職業・最終学歴とする

図10-1 データマイニング用変数220の内訳

赤枠(54~99)		赤枠(213~220)		共通説明変数		共通説明変数(医療者用)		B型肝炎説明変数		C型肝炎説明変数	
番号	項目名	番号	項目名	番号	項目名	番号	項目名	番号	項目名	番号	項目名
1	個別番号	41	1-2C 多の人	81	2-2C 他人に知られるべき	121	2-3C 遠征する病気	161	3-4種併発	201	3-7自分のやむを得ない事態を
2	1-1B その接触感染	42	1-2C 大人	82	2-2C 付き合いが悪い	122	2-4B かみそり共用	162	3-4検査マニュアル作成	202	3-7自分の思い通り
3	1-1B わからぬ	43	1-2C 女性	83	2-2C 体質管理が大事	123	2-4B キスをする	163	3-4検査マニュアル有無	203	3-7楽しんでる人に返信せず
4	1-1B 不明	44	1-2C 子供	84	2-2C 悪気のある	124	2-4B タオル共用	164	3-5未医師	204	3-7新しい病に感傷的
5	1-1B 性交渉感染	45	1-2C 少ない人	85	2-2C 助産師が感染	125	2-4B 一緒の入浴	165	3-6種別学歴	205	3-7間違いを責めず
6	1-1B 接触感染	46	1-2C 年々増	86	2-2C 悪化から感染	126	2-4B 会話する	166	3-7正しい知識	206	3-7面白く情報ほぐしたい
7	1-1B 変種感染	47	1-2C 年々減	87	2-2C 家族の負担大	127	2-4B 健康に染る	167	3-7正しい知識を授けた経験	207	3-8ウイルス検査費用
8	1-1B 傷口感染	48	1-2C 恐ろしい	88	2-2C 差別受の者	128	2-4B 同じ病から食べる	168	3-7ホッとして寝るで買し物	208	3-2医療職歴
9	1-1B 血液感染	49	1-2C 恐ろしくない	89	2-2C 併発感染	129	2-4B 同じ病で食べる	169	3-7マイペース	209	2階層者
10	1-1C その他感染	50	1-2C 治りにくい	90	2-2C 悪人設備が悪い	130	2-4B 喋って会話する	170	3-7ルール厳守	210	1-1正帯菌
11	1-1C わからぬ	51	1-2C 治りやすい	91	2-2C 恐ろしい病気	131	2-4B 性交渉する	171	3-7挨拶好き	211	2-4正帯菌
12	1-1C 不明	52	1-2C 男性	92	2-2C 治らない病気	132	2-4B 握手する	172	3-7新しいことへの挑戦	212	2-5正帯菌
13	1-1C 性交渉感染	53	1-2C 費用大	93	2-2C 治療費が大きい	133	2-4B 歯ブラシ共用	173	3-7細かい事こだわらぬ	213	B 忌避感
14	1-1C 接触感染	54	1-2C すべて知られる	94	2-2C 生命保険加入困難	134	2-4B 数に刺される	174	3-7気遣いのが悪い	214	B 忌避感
15	1-1C 変種感染	55	1-2B アルコール不可	95	2-2C 病気がうつる	135	2-5C かみそり共用	175	3-7他人と同じでない不安	215	B 気の毒感
16	1-1C 傷口感染	56	1-2B 一緒に食事しない	96	2-2C 経済的に大変	136	2-5C キスをする	176	3-7他人の発言にイライラ	216	B 関係感
17	1-1C 血液感染	57	1-2B 仕事や家事が大事	97	2-2C 自覚症状に乏しい	137	2-5C タオル共用	177	3-7他人の他たれもの接触	217	C 忌避感
18	1-2B その病	58	1-2C 悪化が怖い	98	2-2C 講師が大事	138	2-5C 一緒の入浴	178	3-7仲間内と一緒ではない	218	C 関係感
19	1-2B イメージ	59	1-2B 付き合いが悪い	99	2-2C 運動不可	139	2-5C 会話する	179	3-7友人にメールや電話	219	C 気の毒感
20	1-2B ワクチン	60	1-2B 体質管理が大事	100	2-3B そのイメージ	140	2-5C 健康に染る	180	3-7友人の思い断らない	220	C 関係感
21	1-2B 不明	61	1-2B 悪気のある	101	2-3B アルコール過多	141	2-5C 同じ病から食べる	181	3-7友人の集りに慣れない		
22	1-2B 増減無	62	1-2B イメージ無し	102	2-3B イメージ無し	142	2-5C 同じ病で食べる	182	3-7困る事する		
23	1-2B 多々の人	63	1-2B 家族から感染	103	2-3B ワクチン予防	143	2-5C 喋って会話する	183	3-7相手に影響を受けぬ		
24	1-2B 大人	64	1-2B 家族の負担大	104	2-3B 不明	144	2-5C 性交渉する	184	3-7差別を受けた経験		
25	1-2B 女性	65	1-2B 差別受の者	105	2-3B 性交渉感染	145	2-5C 握手する	185	3-7前に健康診断		
26	1-2B 子供	66	1-2B 併発感染	106	2-3B 変種に進行	146	2-5C 歯ブラシ共用	186	3-7期点検後の検査		
27	1-2B 少ない人	67	1-2B 悪人設備が悪い	107	2-3B 肝がんを合併	147	2-5C 数に刺される	187	3-7心配事多い		
28	1-2B 年々増	68	1-2B 恐ろしい病気	108	2-3B 輸血感染	148	3-1年齢	188	3-7思いやりがある		
29	1-2B 年々減	69	1-2B 恐ろしくない	109	2-3B 適切な治療	149	3-1性別	189	3-7思い立ったから実行		
30	1-2B 恐ろしい	70	1-2B 治療費が大きい	110	2-3B 遠征する病気	150	3-2ブロッコ	190	3-7悪い方向へ考えがち		
31	1-2B 恐ろしくない	71	1-2B 生命保険加入困難	111	2-3C その他イメージ	151	3-3肝臓分枝機会	191	3-7悪い面を認めて不安		
32	1-2B 治りにくい	72	1-2B 病気がうつる	112	2-3C アルコール過多	152	3-3肝臓介縁機会	192	3-7傷口を口ふかない		
33	1-2B 治りやすい	73	1-2B 経済的に大変	113	2-3C イメージ無し	153	3-3肝臓直接機会	193	3-7病気をコントロール		
34	1-2B 男性	74	1-2B 自覚症状に乏しい	114	2-3C ワクチン予防	154	3-3肝臓直接機会	194	3-7健康診断しない		
35	1-2B 費用大	75	1-2B 通院が大変	115	2-3C 不明	155	3-4B ワクチン接種機会	195	3-1本職差別		
36	1-2B その他	76	1-2B 運動不可	116	2-3C 併発感染	156	3-4B 検査マニュアル有無	196	3-7決まった人と話す		
37	1-2B イメージ	77	1-2C すべて知られる	117	2-3C 次第に進行	157	3-4B 液体測定機会	197	3-7決まった通りに進行		
38	1-2B ワクチン	78	1-2C アルコール不可	118	2-3C 肝がんを合併	158	3-4B 液体測定機会	198	3-7仲間意識		
39	1-2B 不明	79	1-2C 一緒に食事しない	119	2-3B 輸血感染	159	3-4B 予防接種機会	199	3-7病気の悪化が気になる		
40	1-2B 増減無	80	1-2C 仕事や家事が大事	120	2-3C 適切な治療	160	3-4B 感染予防的行動	200	3-7細かいこと気にする		

共通説明変数  
 共通説明変数(医療者用)  
 B型肝炎説明変数  
 C型肝炎説明変数

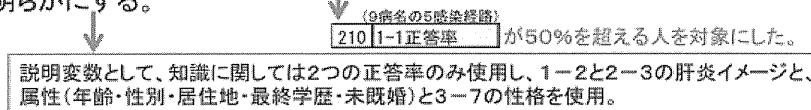
赤枠の目的変数は、2値変数(カテゴリ)である。因子分析の結果、各各別番号に割り付けられたスコアを、(+)なら「強い」、(-)なら「弱い」とした。

図10-2 マイニング試行テーマとマイニングデータ(目的変数と説明変数)

1 B型肝炎患者、C型肝炎患者に対して抱いているイメージを分類し、それらのイメージを抱く人と肝炎に関する知識との関係を明らかにする。



2 正しい知識を持っている人の間でも忌避感に差がある場合、その要因を明らかにする。



3 “患者が肝炎に感染していることを開示すべきだ”という差別的行動につながる要因を明らかにする。

図10-3 10-2-3に対応するアンケート質問項目

Ⅱ-1 B型肝炎の患者に対してあなたが抱いているイメージや気持ちに、以下のことはどの程度あてはまりますか、それぞれについてお答えください。

Ⅱ-2 C型肝炎の患者に対してあなたが抱いているイメージや気持ちに、以下のことはどの程度あてはまりますか、それぞれについてお答えください。

	思う		思わない		
	1	2	3	4	5
	強く そう思う	やや そう思う	あまりそう思 わない	全くそう 思わない	わからな い
恐ろしい病気にかかっている	○	○	○	○	○
治らない病気にかかっている	○	○	○	○	○
そばにいと病気がうつるよに感じる	○	○	○	○	○
患者と一緒に食事をするのはこわい	○	○	○	○	○
患者の恋人や配偶者になるのはこわい	○	○	○	○	○
患者となるべく付き合いたくない	○	○	○	○	○
他の人に知らせて感染が広がらないようにしな ければいけないと思う	○	○	○	○	○
他の人にそと知らせた方がよいと思う	○	○	○	○	○
差別を受けており、気の毒だと思う	○	○	○	○	○

図10-4 決定木の分岐条件で現れる数字の意味

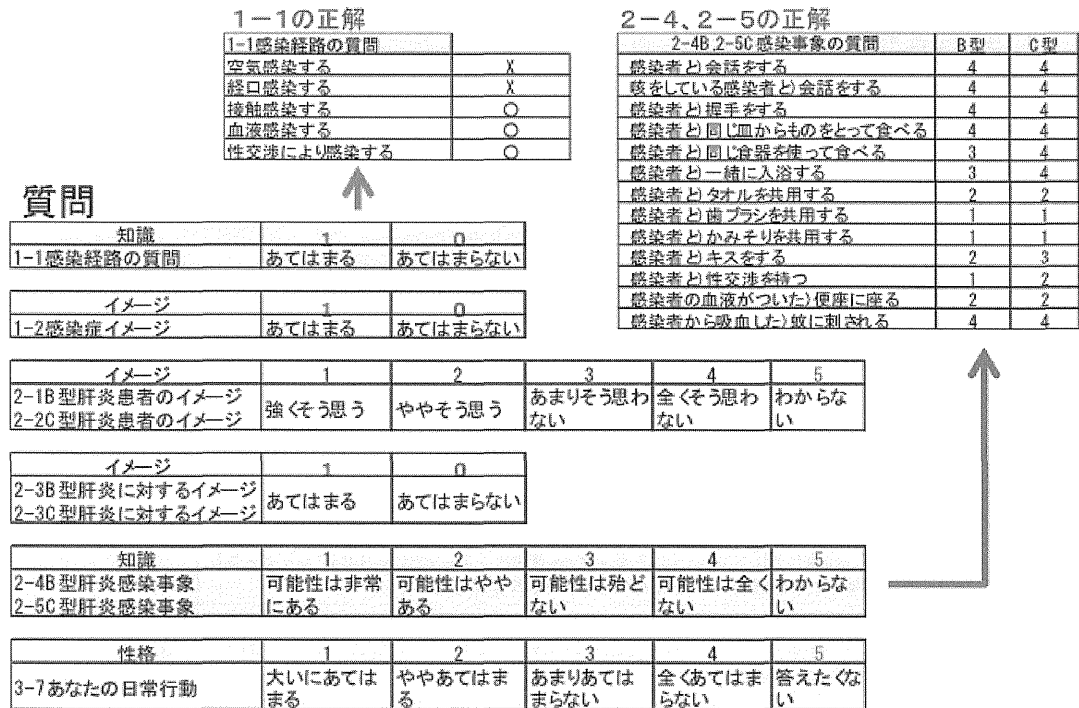


図10-5 B型肝炎患者への気持ち(忌避感)

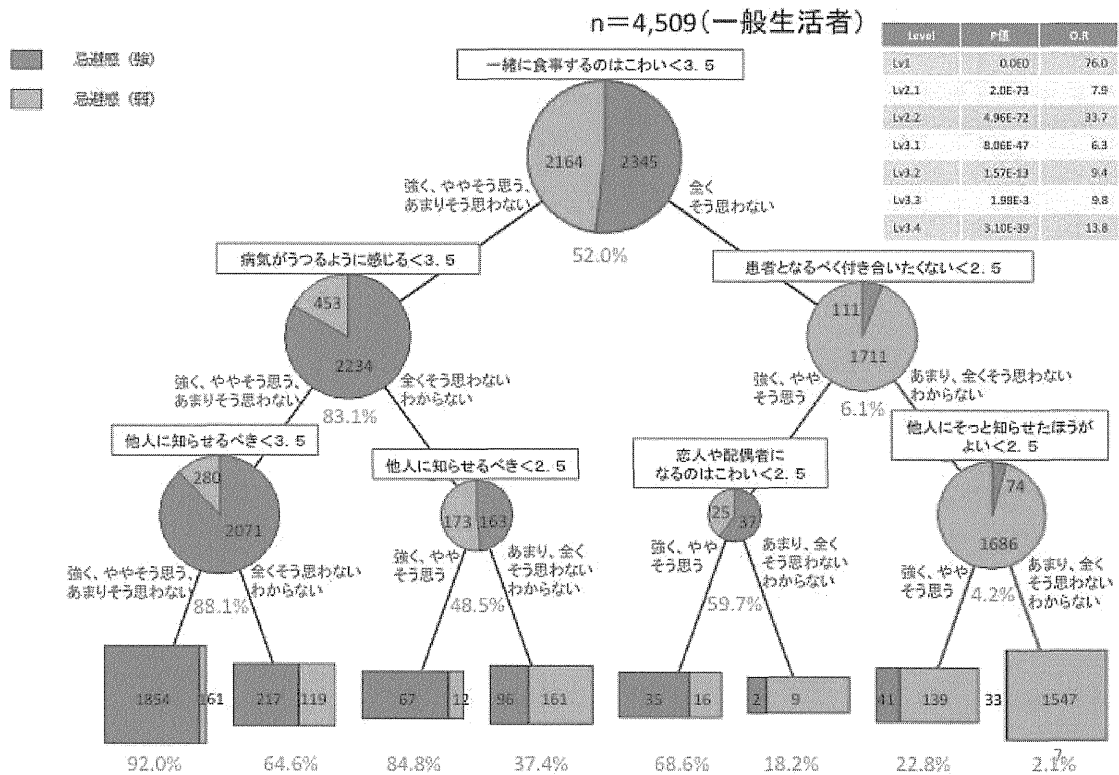


図10-6 B型肝炎患者に対する一般人の忌避感の要因  
～忌避感を持つ人と知識の関係を明らかにする～

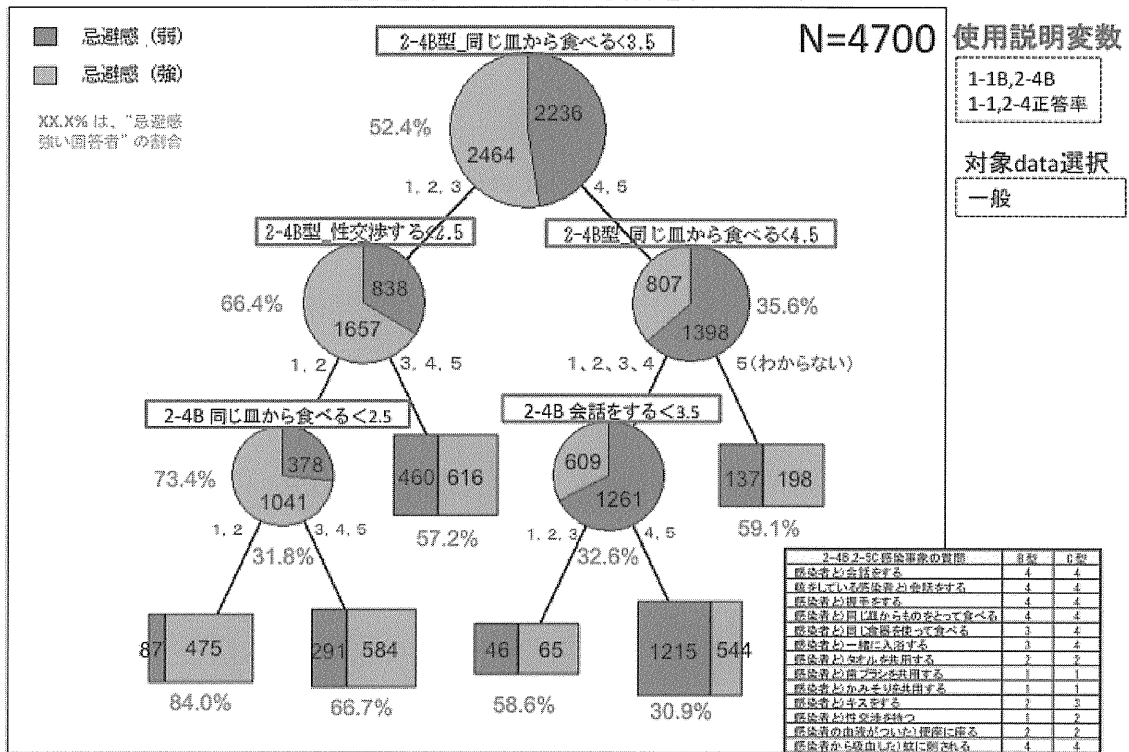


図10-7 B型肝炎患者に対する一般人の忌避感の要因  
～正しい知識を持っている人でも、忌避感に差がある場合その要因を明らかにする～

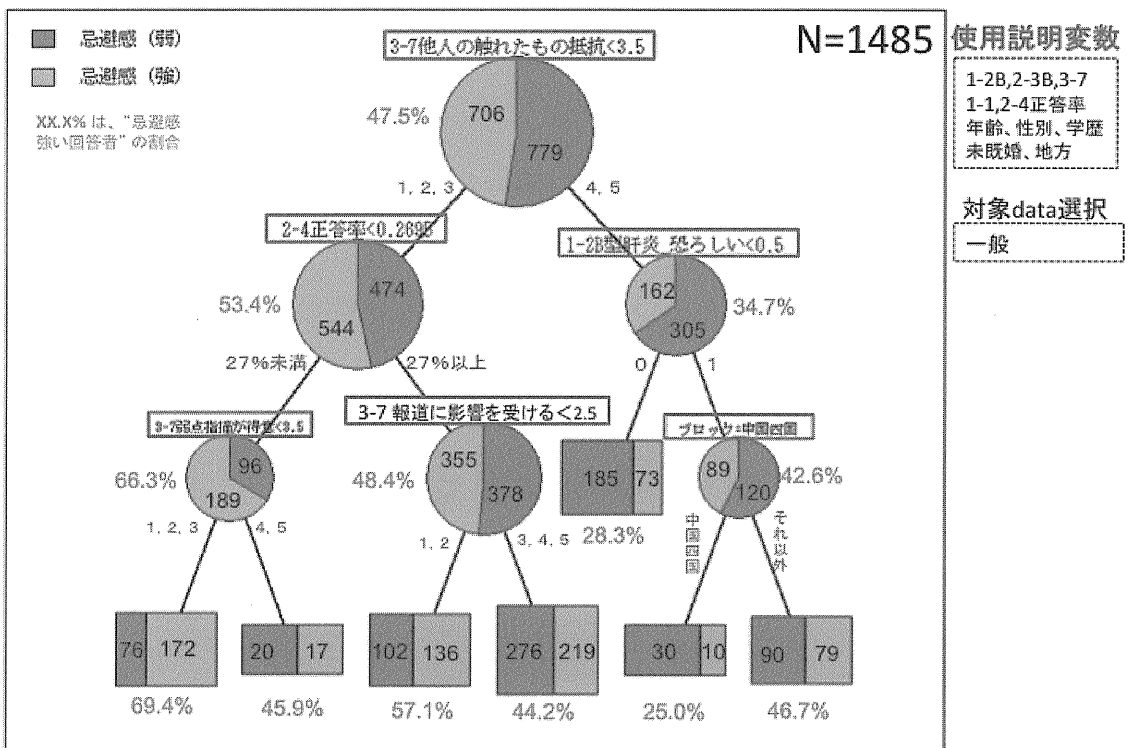


図10-8 C型肝炎患者に対する一般人の忌避感の要因  
～忌避感を持つ人と知識の関係を明らかにする～

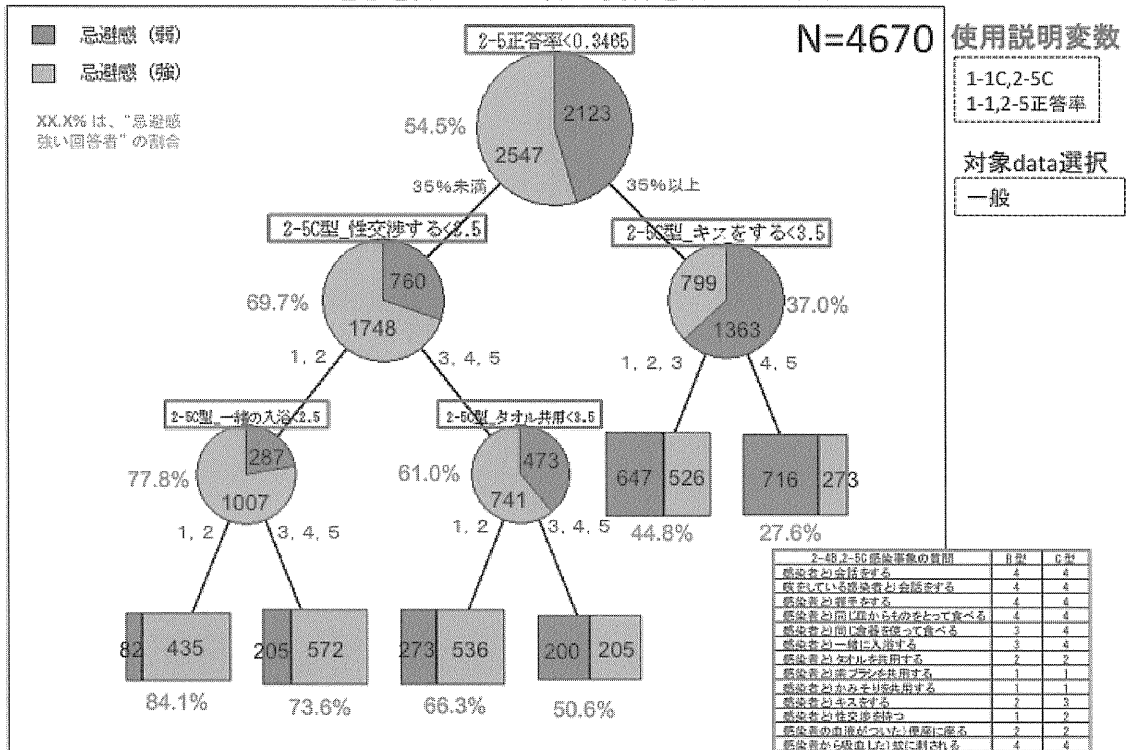


図10-9 C型肝炎患者に対する一般人の忌避感の要因  
～正しい知識を持っている人でも、忌避感に差がある場合その要因を明らかにする～

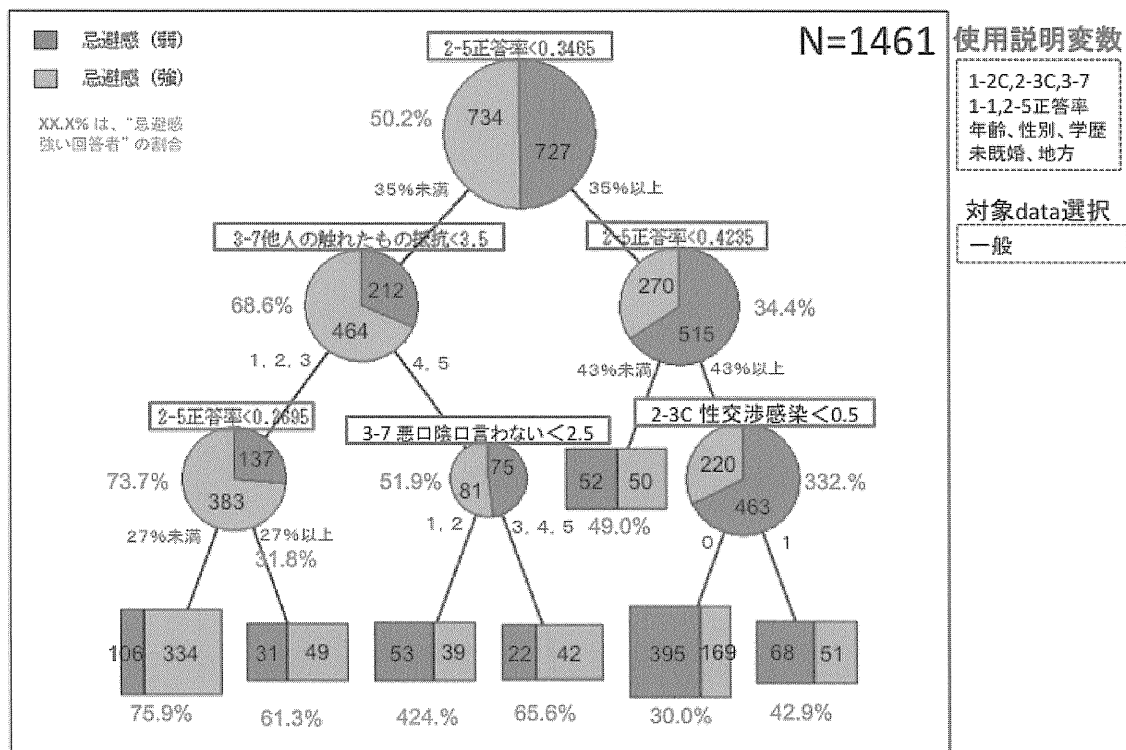


図10-10 B型肝炎患者に対する一般人の恐怖感の要因  
 ～肝炎は怖いというイメージ・認識に関与している要因を明らかにする～

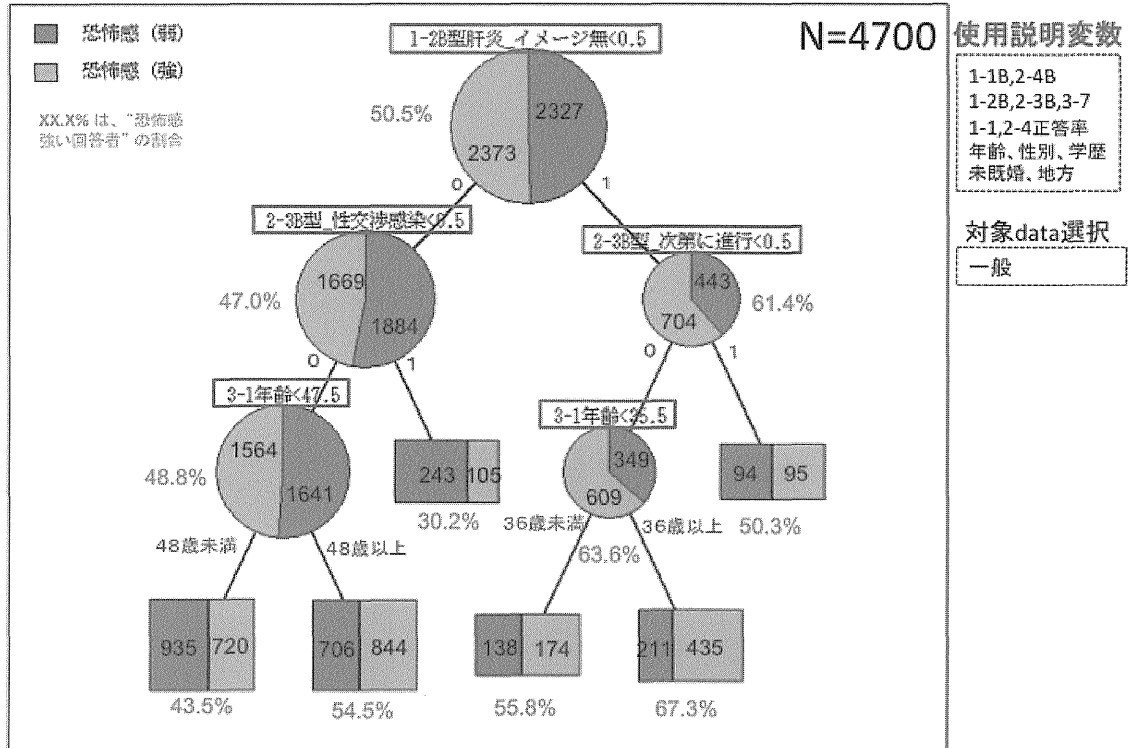


図10-11 C型肝炎患者に対する一般人の恐怖感の要因  
 ～肝炎は怖いというイメージ・認識に関与している要因を明らかにする～

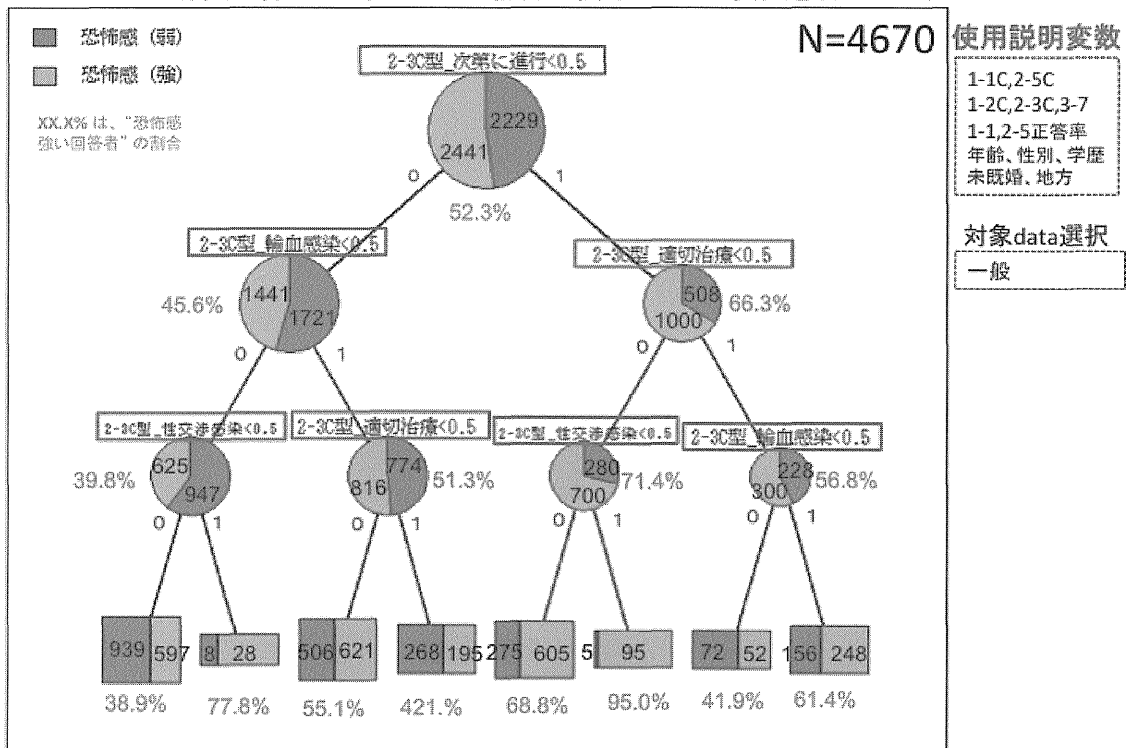


図10-12 一般人のB型肝炎患者に対する“告知すべきだ”の要因

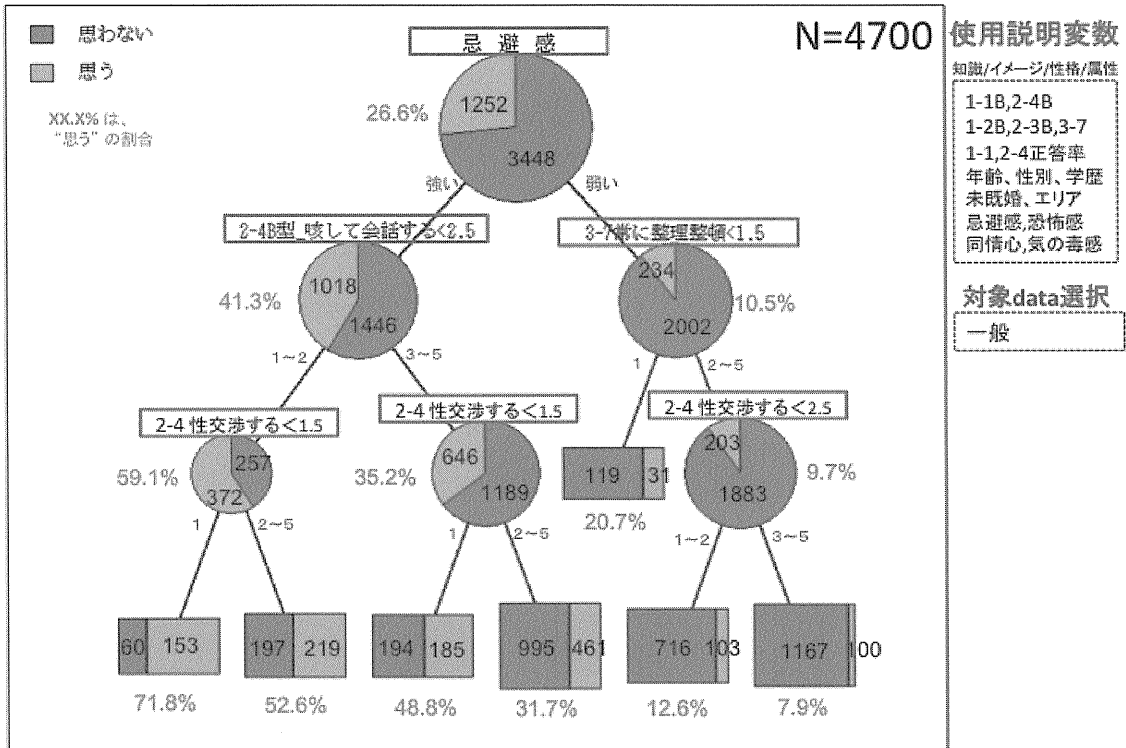
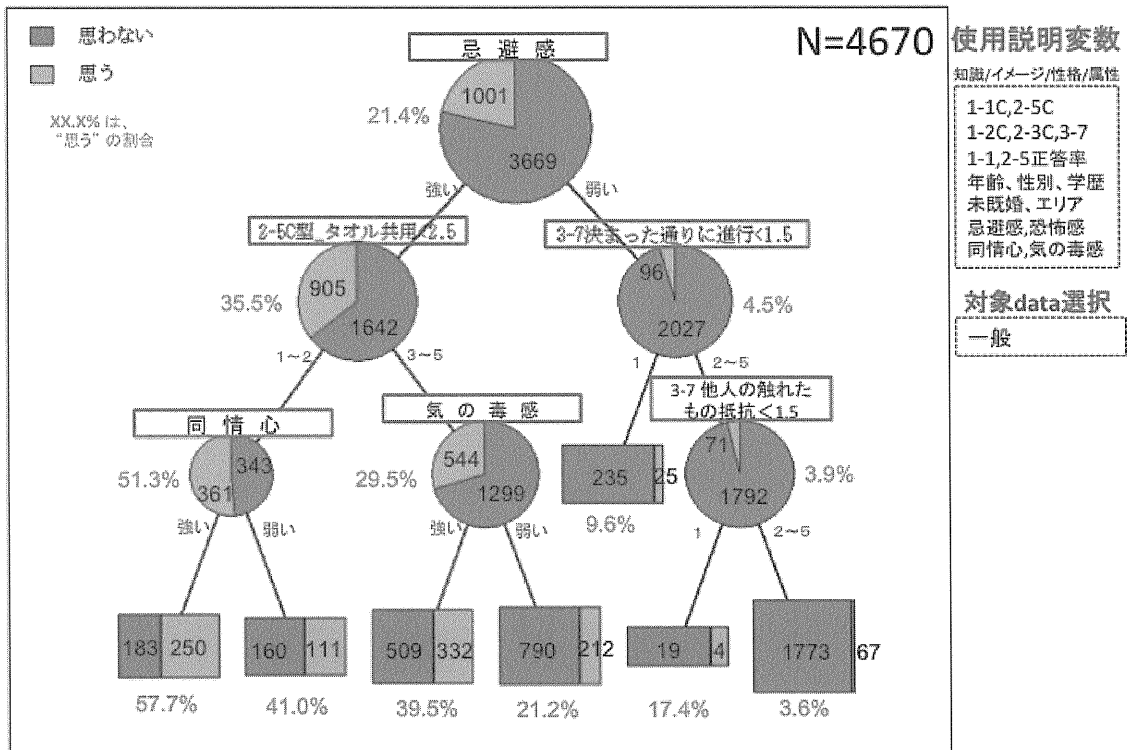


図10-13 一般人のC型肝炎患者に対する“告知すべきだ”の要因



厚生労働科学研究費補助金難病・がん等の疾病分野の医療の実用化研究事業  
平成 25 年度 集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究  
分担研究報告書

医療従事者における感染症(肝炎ウイルス感染を含む)に対する意識調査

研究分担者	四柳 宏	東京大学医学部大学院生体防御感染症学 准教授
	森屋 恭爾	東京大学医学部大学院感染制御学 教授
	森兼 啓太	山形大学医学部検査部 准教授
	正木 尚彦	国立国際医療研究センター国府台病院肝炎・免疫研究センター センター長
	八橋 弘	国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター センター長

研究要旨;日本肝臓病患者団体協議会が患者を対象に行ったアンケートでは、患者が差別を受けたと感じている機会の4割以上が医療機関への受診時である。その原因を分析するために、(1)肝炎患者の周囲にいる医療従事者が肝炎ウイルスを含めた病原微生物に関してどの程度の知識を持っているか、(2)医療従事者が肝炎ウイルスの感染経路に関してどの程度の知識を持っているか、(3)医療従事者がウイルス肝炎やウイルス肝炎に罹患した患者に対してどのようなイメージを持っているか、(4)医療従事者が患者に対して抱く偏見、差別感情と関係のある行動様式、性格特性があるか、などを検討することを目的に一般生活者に行ったアンケート調査と共通のもの(一部医療従事者独自のもの)を医療従事者に対して行った。1315 名を対象としたインターネットでの調査である。以下の結果が明らかになった。(1)B型肝炎・C型肝炎が血液で感染することは9割程度の人が認知しているが、性交渉や体液への接触により感染すると回答している人の割合は一般生活者に比べると認知度は高いものの不十分である。(2)感染経路の認知度は医師>看護師>歯科医>老人施設勤務者>一般生活者の順である。(3)B型肝炎をワクチンで予防できる病気だと認識していたのは一般生活者の6.9%、医師の61.1%、歯科医の40.0%、看護師の51.0%であった。これに対してC型肝炎をワクチンで予防できる病気だと認識していたのは一般生活者の4.4%、医師の4.6%、歯科医の10.5%、看護師の9.1%であった。(4)肝炎患者に対する忌避感(差別的情報開示も含む)は医師、さらには一般生活者よりも強い傾向が認められた。また、歯科衛生士、歯科技工士はさらに強い忌避感を持ち、加えて恐怖感を持っていた。(5)歯科医の忌避感(差別的情報開示も含む)は医師、さらには一般生活者よりも強い傾向が認められた。また、肝炎に関する記載のあるマニュアルが施設にある方が、忌避感が弱い傾向が認められた。(6)医師、歯科医、看護師においては肝炎患者への接触経験のある人の方が忌避感(差別的情報開示も含む)は弱い傾向が認められた。また、肝炎に関する記載のあるマニュアルが施設にある方が、忌避感が弱い傾向が認められた。(7)忌避感に対する寄与が最も大きかったのは感染経路に関する誤った認識、及び性格(きれい好き、周囲に異存する、自己中心的、短気)であった。歯科医の場合、肝炎患者の診療経験も大きな寄与をしていた。規範意識があることにより忌避感(差別的情報開示も含む)は軽減する傾向があった。(8)ワクチン接種率の低い職種ほど忌避感(差別的情報開示も含む)が強い傾向が認められた。



## I. 研究目的

B型肝炎、C型肝炎は輸血をはじめとする血液を媒介として伝播する感染症である。特にB型肝炎ウイルス（HBV）は体液を介した感染も起こし得ることが知られている。感染の防止のためには体液に触れる際に十分な注意が必要である。

感染防止のため、医療従事者は体液に触れる際に標準予防策を行っている。標準予防策はあらゆる人の体液には病原微生物が含まれることを前提として、体液に触れる前後の手洗い、触れる際の手袋着用を行うものである。医療従事者は他人への感染伝播を防止しなければいけないために標準予防策を守るわけである。

しかしながら医療従事者の中には検査技師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手など医師や看護師同様に感染リスクのある業務に従事している人が含まれる。また、保育所や老人福祉施設に勤務する人を対象としたガイドラインは既にあるが、ウイルス肝炎の伝播を防止することを念頭に置いて作られたものではない。

「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」には、肝炎患者等に対する偏見、差別が存在することが書かれている。この原因の大きな要因は医療従事者が肝炎（肝炎ウイルスの伝播）に対して正確な知識を有していないことだと思われる。

日本肝臓病患者団体協議会によるアンケート結果によれば患者の約3割が偏見・差別を受けたと回答しており、その4割が医療機関受診の機会に経験しているとしている。医療機関に勤務する者は患者の個人情報を入力しやすい立場にいるとはいえ、個人情報保護を遵守する必要性は認識している。また、肝炎に関しては一般生活者と比べて認知度ははるかに高いはずであるはずであり、医療現場での偏見・差別が多いのは不思議である。

その原因として考えられることは、（1）ウイルス肝炎に対する正確な認識・知識が十分いきわたっていない、（2）特に検査技師、歯科衛生士・技工士・助手、さらには保育施設勤務者・老人保健施設勤務者などの認知が不十分である、（3）個人情報の守秘の重要性が十分理解できていない医療従事者がいる、（4）医療従事者の中に肝炎患者に対する偏見を持ちやすかったり差別行動に出たりしやすい性格特性、行動特性を持つ者がいる、などが考えられる。

研究班では一般生活者に関して調査を行い、（1）と（4）に関して検討を行ってきた。一般生活者の肝炎に対する認識は不十分であり、偏見・差別につながり得る性格特性、行動特性の存在も示唆された（個別報告書「一般生活者における感染症（肝炎ウイルス感染を含む）に対する意識調査」参照）。

そこで本調査では（1）肝炎患者の周囲にいる医療従事者が肝炎ウイルスを含めた病原微生物に関してどの程度の知識を持っているか、（2）医療従事者が肝炎ウイルスの感染経路に関してどの程度の知識を持っているか、（3）医療従事者がウイルス肝炎やウイルス肝炎に罹患した患者に対してどのようなイメージを持っているか、（4）医療従事者が患者に対して抱く偏見、差別感情と関係のある行動様式、性格特性があるか、ということを検討することを目的とした。

## J. 研究対象と方法

### I 対象

（株）インテージに予めインターネットアンケートのモニターとして登録されている約1300人を対象にアンケートを行うこととした。

まず、スクリーニング調査として医療従事者のモニター約7000人に対して事前調査を行った。（表1）調査では（1）ウイルス肝炎を含めた感染症そのものを認知しているか、

(2) 自身及び肉親にウイルス肝炎感染者がいるかどうか、を尋ねることとした。(1)は感染症そのものを認知している者を選び出すための、(2)は本人及び肉親がウイルス肝炎の場合アンケートの対象から除外するためである。また、職業属性や勤務先についても調査を行った。スクリーニング調査には6824人から回答があった。

スクリーニング調査で得られたサンプルから約1500人に対して本調査(表2)の依頼をした。最終的に有効回答が得られたのは1315人(医療従事者1205人、福祉従事者110人)であった。

## II 方法

スクリーニング調査で得られたサンプルから約1500人に対して本調査(表2)の依頼をした。

アンケート結果に関しては(株)インテージに連結不可能匿名化をしてもらったものの提供を受け、解析を行った。

## K. アンケート結果の解析

アンケートによって得られた結果は(株)インテージに一次解析を依頼した。さらに今年度は(株)トータルナレッジに因子分析、データマイニングなどの二次解析を依頼し、詳しい解析を行った。

## L. 研究結果

### I 感染症の感染経路に関する知識(図1)

肝炎を含めた感染症の感染経路に関する知識をアンケートの中で尋ねた。肝炎ウイルス(A型、B型、C型)とHIV感染症の感染経路をどの程度認知しているかに関する結果を(図1)に示す。一番左の欄に一般生活者の感染経路に関する認識度、右側に医師、歯科医、看護師、福祉従事者の認知度を示してい

る。

A型肝炎が経口感染することを認知している人は医師の84.8%、歯科医の34.9%、看護師の43.9%、福祉従事者の11.8%であった。他方A型肝炎が血液で感染すると考えている人は医師の16.6%、歯科医の53.5%、看護師の44.9%、福祉従事者の58.2%であった。

B型肝炎の感染経路が血流感染であることは医師の92.9%、歯科医の85.5%、看護師の90.4%、福祉従事者の71.8%が認知していたが、性交渉で感染することは医師の59.9%、歯科医の29.5%、看護師の40.1%、福祉従事者の10.0%が認知しているのみであった。接触感染し得ることは医師の16.4%、歯科医の17.8%、看護師の13.1%、福祉従事者の10.0%が認知しているにすぎなかった。

一方C型肝炎の感染経路に関しては、血流感染であることは医師の94.2%、歯科医の88.7%、看護師の91.8%、福祉従事者の74.5%が認知していたが、性交渉で感染することは医師の47.4%、歯科医の28.4%、看護師の39.9%、福祉従事者の10.0%が認知しているのみであった。接触感染し得ることは医師の13.9%、歯科医の15.6%、看護師の10.9%、福祉従事者の9.1%が認知しているにすぎなかった。これらの比率はB型肝炎とほとんど同じであり、医療従事者にとっては、一般生活者同様、B型肝炎とC型肝炎の感染経路はほぼ同一と考えられていることがわかった。

### II 回答者属性と肝炎に対するイメージ(図2)

肝炎に対するイメージを回答者属性ごとにまとめてみた。

「次第に進行する病気である」、「肝がんを合併する病気である」、「適切な治療を行えば進行を防ぐことができる」、「輸血で感染する可能性がある」、「性交渉で感染する」はB型、C型のどちらについても正しいイメージであ

るが、医師の70%程度がこのイメージを持っていた。看護師、歯科医となるにつれてイメージ保有率が約10%ずつ低下していた。

B型肝炎はワクチンによる予防が可能であり、一方C型肝炎はワクチンによる予防は不可能な病気であるが、B型肝炎をワクチンで予防できる病気だと認識していたのは一般生活者の6.9%、医師の61.1%、歯科医の40.0%、看護師の51.0%であった。これに対してC型肝炎をワクチンで予防できる病気だと認識していたのは一般生活者の4.4%、医師の4.6%、歯科医の10.5%、看護師の9.1%であった。

### III 回答者属性と忌避感 (図3)

図2では一般生活者、医師、歯科医、看護師の間で感染経路の理解度に差があることが示された。一般生活者では理解度の差が忌避感の差につながることを示されている。医療従事者においても同様の傾向があるかどうかを検証してみた。

日常生活での様々な場面において肝炎が感染するかどうかの認知度を一般生活者に尋ねてみた結果が(図3)の通りである。

図3では医療福祉従事者におけるB型肝炎患者に対する忌避感とC型肝炎患者に対する忌避感の平均値が、0となるように計算されているため、相対比較であるが、忌避感医師、看護師、歯科医の順に高くなる。歯科医の忌避感はその年代でも高いことがこの図から読み取れる。また、福祉施設勤務者の忌避感医師と看護師の間に位置する。

医療従事者に対するアンケートでは、肝炎患者への接触の有無、勤務施設に感染対策マニュアルがあるかどうかについて調査を行った。こうしたことと肝炎患者への忌避感との関係を見たのが図4である。医師、歯科医、看護師においては接触経験のある人の方が忌避感弱い傾向が認められた。また、肝炎に関する記載のあるマニュアルが施設にある方

が、忌避感が弱い傾向が認められた。

歯科医の忌避感の特徴を歯科技工士、歯科衛生士のそれと共に解析したのが図5である。歯科医の忌避感(差別的情報開示も含む)は医師、さらには一般生活者よりも強い傾向が認められた。また、歯科衛生士、歯科技工士はさらに強い忌避感を持ち、加えて恐怖感を持っていることが判明した。

## IV 忌避感を説明する回帰分析

### 1. B型肝炎患者に対する忌避感を説明する回帰分析

これまでの解析をもとに、B型肝炎患者に対する忌避感を説明する回帰式を作成した。忌避感は図6-1(医師)、6-2(歯科医)、6-3(看護師)で示した回帰式で最もよく説明された。

忌避感に対する寄与が最も大きかったのは感染経路に関する認識(咳をしている人との会話、キス、一緒の入浴、食事を一緒にする、タオルを共用する、蚊に刺される)、及び性格(きれい好き、周囲に異存する、自己中心的、短気)であった。歯科医の場合、肝炎患者の診療経験も大きな寄与をしていた。

規範意識があることにより忌避感は軽減する傾向があった。

### 2. C型肝炎患者に対する忌避感を説明する回帰分析

C型肝炎患者に対してもB型肝炎患者同様に忌避感を説明する回帰式を作成した。忌避感医師は図7-1(医師)、7-2(歯科医)、7-3(看護師)で示した回帰式で最もよく説明された。

忌避感に対する寄与が最も大きかったのは感染経路に関する認識(咳をしている人との会話、キス、一緒の入浴、同じ食器を使う、タオルを共用する、蚊に刺される)、及び性格(きれい好き、周囲に異存する、自己中心的、

短気)であった。歯科医の場合、肝炎患者の診療経験も大きな寄与をしていた。

規範意識があることにより忌避感は軽減する傾向があった。

## V HBワクチン接種と忌避感との関係

HBワクチンの接種の有無とB型肝炎患者に対する忌避感との関係を調べてみた。図8に示すようにワクチン接種率の低い職種ほど忌避感が強い傾向が認められた。

## M. 考察

一般生活者に対する調査から明らかになったことは、「ウイルス肝炎という名前は聞いたことがあっても、血液を介して感染することは半数の人しか知らない。体液が触れ合うような濃厚接触によりウイルスが伝播することはほとんどの人が知らない。」ということであった。

医療従事者の調査の結果、B型及びC型肝炎が血液を介して感染することを知っているのはB型肝炎の場合、医師の92.9%、歯科医の85.5%、看護師の90.4%、福祉従事者の71.8%であった。この比率は低くはないが、血液に直接接する機会のある医療従事者の認識が十分であるとは言えない。

体液を介した濃厚接触の典型は性交渉である。B型肝炎は代表的な性感染症の一つであるがこのことを認知しているのは医師の59.9%、歯科医の29.5%、看護師の40.1%、福祉従事者の10.0%にしか過ぎない。汗以外の体液には感染性があると考え、対応することは標準予防策そのものであるが、標準予防策とウイルス肝炎の伝播とが有機的に結びついていない医療従事者の方が多いいことをこの調査結果は示している。

図1からは、B型肝炎、C型肝炎が空気感染すると考える(誤り)人の割合は医療従事者では低い、経口感染すると考える人の割合は医療従事者、一般生活者間で差がない。

医師で割合が高いのは、唾液についてのウイルスが口腔粘膜から体内に侵入して感染すると考えているためと思われる(口腔粘膜に明らかな傷がなければ感染しない)。また、接触感染する(体液に素手で触れた場合には感染が起こり得るので正しい)と考えている人の割合は医療従事者で高い。ことに医師よりも歯科医でその割合が高い。

図3、4では歯科医の忌避感が高いことが、図5では歯科衛生士、歯科技工士の忌避感が高いことが示されている。歯科医、歯科衛生士、歯科技工士は患者の口腔に手を入れて接触する職業である。歯の研磨の際には体液や削った歯片を含んだ水の曝露を受ける職業でもある。従って歯科的処置の際には手袋の装着を行い、患者毎に交換する必要がある。また、マスク、プロテクター、キャップ、前掛けなどを使用することが望ましく、このことはガイドラインにも書かれている。歯科医、歯科衛生士、歯科技工士の強い忌避感からは、標準予防策が遵守されているかどうかの確認が必要であることが示唆される。

医療従事者の忌避感を軽減させる可能性があることとして、本調査からは2つのことが明らかになった。肝炎患者の診療経験を持つこと、肝炎について書かれたマニュアルが整備されていることである。前者に関しては実際の診療経験を持たなくとも、視聴覚教材などを用いた研修でもある程度可能だと思われる。また、後者に関しては既に学会などから発行されているマニュアルを各医療機関で備え付けることだけでも目的は達することができる。

B型肝炎はワクチンで予防可能な病気である。従って血液・体液に曝露する可能性のある医療従事者は全員B型肝炎(HB)ワクチンを接種していることが推奨される。しかしながら図8からは、医師、看護師、歯科医、歯科衛生士・技工士、福祉施設勤務者のワクチン接種率はそれぞれ80, 60, 70, 40, 10%程度と推定される。これでは医療従事者をB型肝炎から守ることはできないし、患